

2面 中国地区内航海運労使懇談会
(中・四国)
東京湾フェリーの「しらは丸」
船体外装を黒船カラーに(関東)

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3040号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2023年(令和5年)
12月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒104-0053 東京都中央区
晴海4丁目7番28号
ホテルマリナーズコート東京内
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-5410-8337
定価 1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

第79年度中央コミュニケーションスクール 横浜で開催、会社の垣根を越えて交流



全国各地から組合員26人が参加、絆を深める

11月20日・21日の2日間、第79年度中央コミュニケーションスクールをナビオス横浜において、4年ぶりに開催した。
この中央コミュニケーションスクールは、所属会社が異なる全国の組合員同士の交流や組合の歴史を学び団結を深めることを目的として参加者を募り、全国から26人の組合員が参加した。



あいさつする齋藤洋中央執行委員



「組合の歴史・100年史」講義



アイスブレイク

初日は午前9時から開講式が開催された。斎藤洋中央執行委員のあいさつで始まり、齋藤洋中央執行委員から主催者代表あいさつが述べられた後、参加組合員が一人ずつ自己紹介を行った。

最初の講義は、初対面の参加者の緊張をほぐす恒例の「アイスブレイク」で、組合員同士のあいさつに始まり、グループに分かれ、協力してちぎり絵を作るなどの、ゲームやレクリエーションを通じて、緊張もほぐれ和やかな雰囲気になった。

午後からは、鈴木順三組合長代行が講師として「組合の歴史・100年史」をテーマに、全日本海員組合の生い立ちや過去の争議行為などについて説明した。参加者は、普段勤務中では知ることができない内容に、メモを取り真剣に講義を受けていた。

初日最後の講義はグループワークで、参加者が6つのグループに分かれ、4色のドミノを使い、チームワークを構築するために必要な要素や仕事を進める上での計画(Plan)、実行(Do)、検証(Check)、改善行動(Action)、いわゆるPDCAサイクルについて演習を行った。参加者からは「チームワークには報告・連絡・相談が大切である」とことや、「同じ目標に向かって取り組むことが大切である」などの意見が出された。

夕刻からは経験交流会として、ナビオス横浜から徒歩5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しむながら、船内生活や仕事などについて経験談などを語り交流を深めた。その後、ナビオス横浜3階、シーメンズクラブにおいて、更なる親睦を深め、班対抗ビリヤード大会が行われ、大いに盛り上がった。

2日目の朝8時30分からは、横浜シティガイド協会のガイドで「横浜開港の歴史的名所・建造物散策」として、横浜港周辺にある、横浜市開港記念会館や横浜税関、海上保安資料館横浜館、横浜ハンマーヘッドや赤レンガ倉庫、山下公園(氷川丸前)の説明を受けながら散策し、横浜開港の歴史について学んだ。

午後からは、木村俊晴総務部副部長が講師となり「組合員について」として、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるといった説明と併せ、執行部員の業務紹介も行われ、質疑応答で、理解を深め、講義を終了した。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

築するために必要な要素や仕事を進める上での計画(Plan)、実行(Do)、検証(Check)、改善行動(Action)、いわゆるPDCAサイクルについて演習を行った。参加者からは「チームワークには報告・連絡・相談が大切である」とことや、「同じ目標に向かって取り組むことが大切である」などの意見が出された。

夕刻からは経験交流会として、ナビオス横浜から徒歩5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しむながら、船内生活や仕事などについて経験談などを語り交流を深めた。その後、ナビオス横浜3階、シーメンズクラブにおいて、更なる親睦を深め、班対抗ビリヤード大会が行われ、大いに盛り上がった。

午後からは、木村俊晴総務部副部長が講師となり「組合員について」として、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるといった説明と併せ、執行部員の業務紹介も行われ、質疑応答で、理解を深め、講義を終了した。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

夕刻からは経験交流会として、ナビオス横浜から徒歩5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しむながら、船内生活や仕事などについて経験談などを語り交流を深めた。その後、ナビオス横浜3階、シーメンズクラブにおいて、更なる親睦を深め、班対抗ビリヤード大会が行われ、大いに盛り上がった。

午後からは、木村俊晴総務部副部長が講師となり「組合員について」として、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるといった説明と併せ、執行部員の業務紹介も行われ、質疑応答で、理解を深め、講義を終了した。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

夕刻からは経験交流会として、ナビオス横浜から徒歩5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しむながら、船内生活や仕事などについて経験談などを語り交流を深めた。その後、ナビオス横浜3階、シーメンズクラブにおいて、更なる親睦を深め、班対抗ビリヤード大会が行われ、大いに盛り上がった。

午後からは、木村俊晴総務部副部長が講師となり「組合員について」として、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるといった説明と併せ、執行部員の業務紹介も行われ、質疑応答で、理解を深め、講義を終了した。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

夕刻からは経験交流会として、ナビオス横浜から徒歩5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しむながら、船内生活や仕事などについて経験談などを語り交流を深めた。その後、ナビオス横浜3階、シーメンズクラブにおいて、更なる親睦を深め、班対抗ビリヤード大会が行われ、大いに盛り上がった。

午後からは、木村俊晴総務部副部長が講師となり「組合員について」として、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるといった説明と併せ、執行部員の業務紹介も行われ、質疑応答で、理解を深め、講義を終了した。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。

最後に、修了式が行われ、齋藤中央執行委員から参加組合員代表としてハートランドフェリー株式会社所属の石田菜一さんへ修了証書が手渡され、2日間の研修が終了した。参加した組合員からは「また参加したい」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができて良かった」「講義を受け、組合のことについて、今までとは違った考え方ができるようになった」「今後の船員人生に必ず生きる」などの感想が聞かれた。



横浜開港の歴史的名所・建造物散策



グループワーク



ビリヤード大会



経験交流会

第78年度 海員スポーツイベント 全国優勝表彰

ゴルフ部門

渋谷泰伸さん(瀬戸大橋総合開発)



遊佐清和高松支部長(左)と渋谷泰伸さん(右)

ボウリング部門

吉安稿祐さん(コスモ海運)



吉安稿祐さん(左)と山原始名古屋支部長(右)

瀬戸大橋総合開発職場委員の渋谷泰伸さんが、第78年度海員スポーツイベントで、ゴルフ部門の全国優勝者に決まり、この度トロフィーの授与を行った。

渋谷さんからは「天候とメンバーに恵まれて、楽しくプレーできました。全国優勝はもうろんうれいですが、海員スポーツイベントに参加する一番の楽しみは、さまざまな人たちと親睦を深めること。引き続きの開催をお願いした上で、職場委員として組合活動を頑張ります」とのコメントをいただいた。

高松支部は、今後もスポーツイベントに限らず、さまざまな形で組合員と執行部が連携し、諸活動に取り組んでいく。

コスモ海運の吉安稿祐さんが、第78年度海員スポーツイベントで、ボウリング部門の全国優勝者に輝いた。

吉安さんが優勝(71点)した「海の日」記念ボウリング大会は、四日市市内で開催。コスモ海運の皆さんにとって大当たりの大会だった。吉安さんが太平洋フェリーの無料乗船券を引き当てたほか、同社の山本薫平さんがニンテンドースイッチを獲得した。さらに吉安さんは大会優勝、全国優勝まで成し遂げ、まさに獅子奮迅の大活躍。

表彰に際し吉安さんは「毎年全国優勝する気で臨んでいくので、参加者の皆さんも頑張ってください!」と述べて、早くもディフェンディングチャンピオンの風格を漂わせた。

福岡地区 ボウリング大会開催

全国発信記事

九州関門
地方支部
= 発信



苫小牧・室蘭地区 ボウリング大会開催

全国発信記事

北海道
地方支部
= 発信



始球式



表彰式

11月24日、福岡市の築市ほうで「福岡地区ボウリング大会」を開催し、現場組合員とその家族、会社関係者など25人が参加した。

開会式では組合から「コロナ禍以降、初開催となる。けがに注意して最後まで、懇親を深めていただきたい」とあいさつし、子どもたちが始球式を行い、ゲームを開始した。終了後は表彰式を行い、参加者からは「賞品を獲得できてうれしい。来年の開催を楽しみにしている」などの声が寄せられ、成功裏にボウリング大会を終了した。大会結果は次の通り。

団体の部
▽優勝 九州郵船チーム (989点、延田博美さん・七田隆裕さん・小園政司さん・杉原淳二さん)
▽優勝 七田隆裕さん (286点、九州郵船)

個人の部
▽優勝 金澤雅宏さん (苫小牧サービス陸上及び小型船舶)

ディノスボウル苫小牧で「第15回苫小牧・室蘭地区ボウリング大会」を開催し、組合員19人と関係者14人が参加した。

開会にあたり、松本順一北海道地方支部長から「組合活動、業務多忙の中、参集いただいたことに感謝申し上げます。本日は、苫小牧・室蘭地区の港湾部門で働く組合員同士の親睦を深め、けがのないよう楽しんでいただきたい」とあいさつを行った。

その後、ルール説明と投球練習を行い、若杉健太北海道地方支部在籍専従執行部員の「プレイボール!」の掛け声でゲーム開始となった。熱い戦いが繰り広げられ、各チームは大盛り上がり。

結果、団体戦は2ゲームト



優勝した金澤雅宏さん(右) (苫小牧サービス陸上及び小型船舶)

1タル平均280点の、苫小牧サービス陸上及び小型船舶チームが優勝した。

個人戦は2ゲームの合計得点を競い、優勝は苫小牧サービス陸上及び小型船舶の金澤雅宏さん。7ストライク、7スピアの好成績で、トータル328点だった。準優勝の北洋海運港務部・大久保涼さんが322点で後に続いた。順位発表と表彰終了後、本大会は盛會裏に閉会した。



菊田杏仙さんと奥様



海は命の源

船乗り40年の菊田杏仙(憲和)氏、
地元で書作展

菊田さんは昭和22年に気仙沼市大島に生まれ、宮城県気仙沼水産高等学校を卒業後、大阪商船三井船舶株式会社に入社。南米航路貨客船兼移民船「あるぜんち丸」に乗船するなど、外国航路の船で世界の海を巡った。その後、フリーにも乗船し、昭和51年、28歳のとき、書道に魅了されて学びはじめた(武山櫻光師入門・宮城野書人会加藤翠柳師入会。平成14年に潮音会を開塾・主宰し、現在は公益財団法人書道芸術院常任総務審査員、公益社団法人全日本書道連盟正会員、毎日書道展会友、河北書道展審査員、宮城野書人会参与などに携わり、書道の発展に貢献している。

書作展は、気仙沼中央公民館体育館で開催され、約40点の作品を展示した。多くの人が会場を訪れ、また多くの知人からお祝いが寄せられた。

一緒に乗船していた当時の船長・佐久間善さんからは「二筆啓上。海上勤務と休暇そして退職後と、長い研鑽を積み、結実された個展の開催おめでとうございます」との開催を祝うメッセージも届いた。

菊田さんは趣味の読書や民謡、野鳥観察のほか、川柳や俳句もたしなみ、展示している作品には自作の句を書いたものも多い。宮城野書人会の尾形澄神氏は「潮音会・菊田杏仙展、海は命の源を心待ちにして」と題し「初秋の黄昏とき、涼風に体を預け、杏仙先生の漢詩・初夏偶吟を詠んでいる、遙か遠くに見える南の空を分かつ雲が水平線のようである。ひととき杏仙偶詠の世界に没入しゆく。杏仙先生が生み出す詩や書作品から、やわらかな波の音、潮の音が香ってくる。吟香というもう一つの風雅な名にひとり合点する。船をおりた今も、先生の心の奥には故郷の海がたゆ々と揺れているだろう。書の世界を探索する道すがら詩を詠み、画を愉しみ、篆刻

菊田さんは「子どものころ、祖父が毎日、巻紙に何やら書いていたことが、書をたしなむきっかけになったのかもしれない。武山櫻光先生に教えを受けてから今年で50年になります。武者修行のつもりで方々にも出かけ、多くの先生方のご教示を得ることもできました。この度は船乗り時代からの夢を実現できたことは、皆さまの陰ながらのご支援があったからこそと深く感謝致す次第です」と感謝を述べた。



にいそしみ、杏仙先生は真の書人墨客である。杏仙先生は慈愛に満ちた人。宮城野書人会発行の月刊誌、書藝苑での選評を読んでいると、文面から柔らかな人柄がほのぼのと立ちのぼってくる。先生から指導を受けている方は皆、杏仙という大海に身を委ね大海原を心地よく泳いでいることでしょう。『海は命の源』と語り、海を愛し海とともに生きてきた一人の書人の初個展を、私は心待ちにしてやまない」と語った。



菊田さんの故郷
気仙沼市

